



第2章

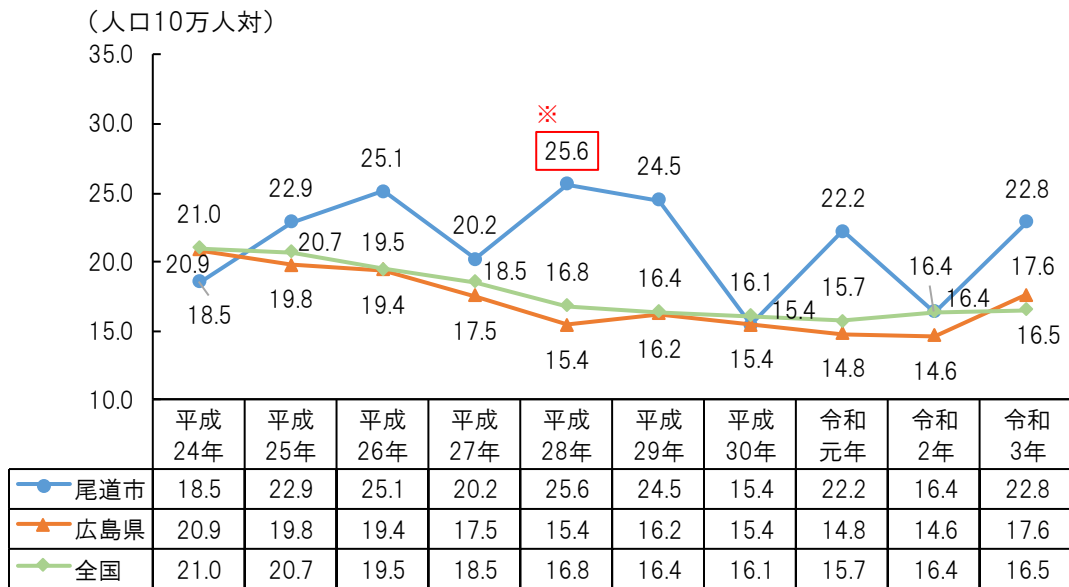
尾道市の現状

1 尾道市の自殺の現状

(1) 自殺死亡率の推移

尾道市の自殺死亡率の推移をみると、平成28年（2016年）をピークに増減を繰り返している状況で、国・県よりも高い数値で推移しており、令和3年（2021年）は22.8となっています。

自殺死亡率の推移



資料：人口動態統計

※尾道市自殺対策推進計画策定時

厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「地域における自殺の基礎資料」の違い

●調査対象の差異

厚生労働省の人口動態統計は、日本における日本人（日本国籍を有する者）を対象とし、警察庁の自殺統計は、総人口（日本における外国人も含む）を対象としています。

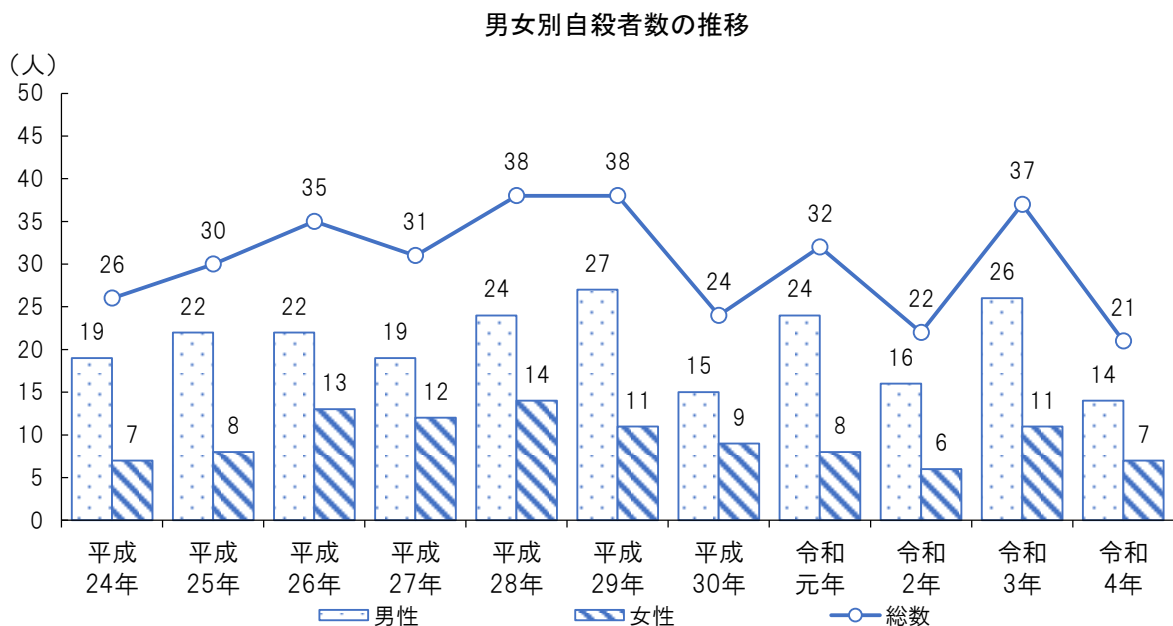
●事務的手続き上の差異

厚生労働省の人口動態統計は、自殺、他殺、あるいは事故死のいずれかの不明の時は自殺以外で処理しており、死亡診断書等について作成者から自殺の旨の訂正報告がない場合は自殺に計上していません。

警察庁の自殺統計は、捜査等により、自殺であると判断した時点で、自殺統計原票を作成し、計上しています。

（２）自殺者数の推移

自殺者数の推移をみると、平成 28 年（2016 年）及び平成 29 年（2017 年）以降で増減を繰り返しており、男女別でみると、女性より男性が多くなっています。令和 4 年（2022 年）では男性が 14 人、女性が 7 人となっています。



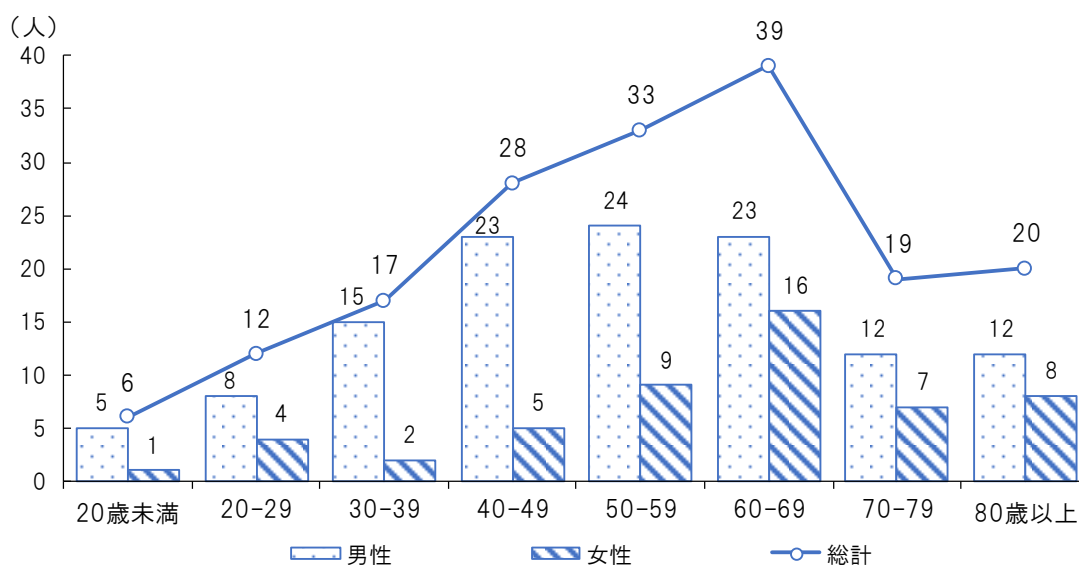
資料：警察庁「地域における自殺の基礎資料（自殺日・居住地）」

(3) 年代別自殺者数・自殺死亡率

年代別の自殺者数の総数をみると、60歳代が最も多く、39人となっており、次いで50歳代（33人）、40歳代（28人）となっています。

男女別でみると、男性は40歳代から60歳代が多く、女性は60歳代が多くなっています。

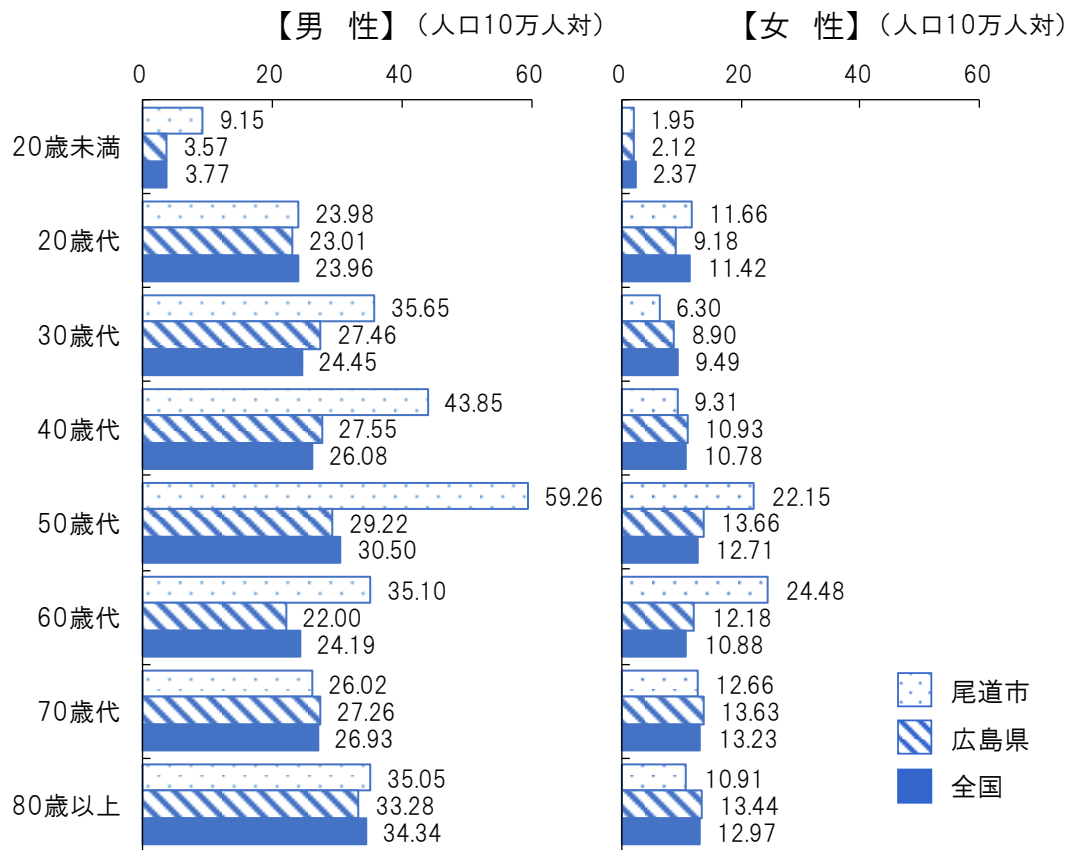
年代別自殺者数（平成29年～令和4年計）



資料：警察庁「地域における自殺の基礎資料（自殺日・居住地）」

性別・年代別自殺死亡率をみると、男性では、70歳代以外で国・県より高くなっています。女性では20歳代、50歳代、60歳代で国・県より高くなっています。

性別・年代別自殺死亡率（平成29年～令和3年計）

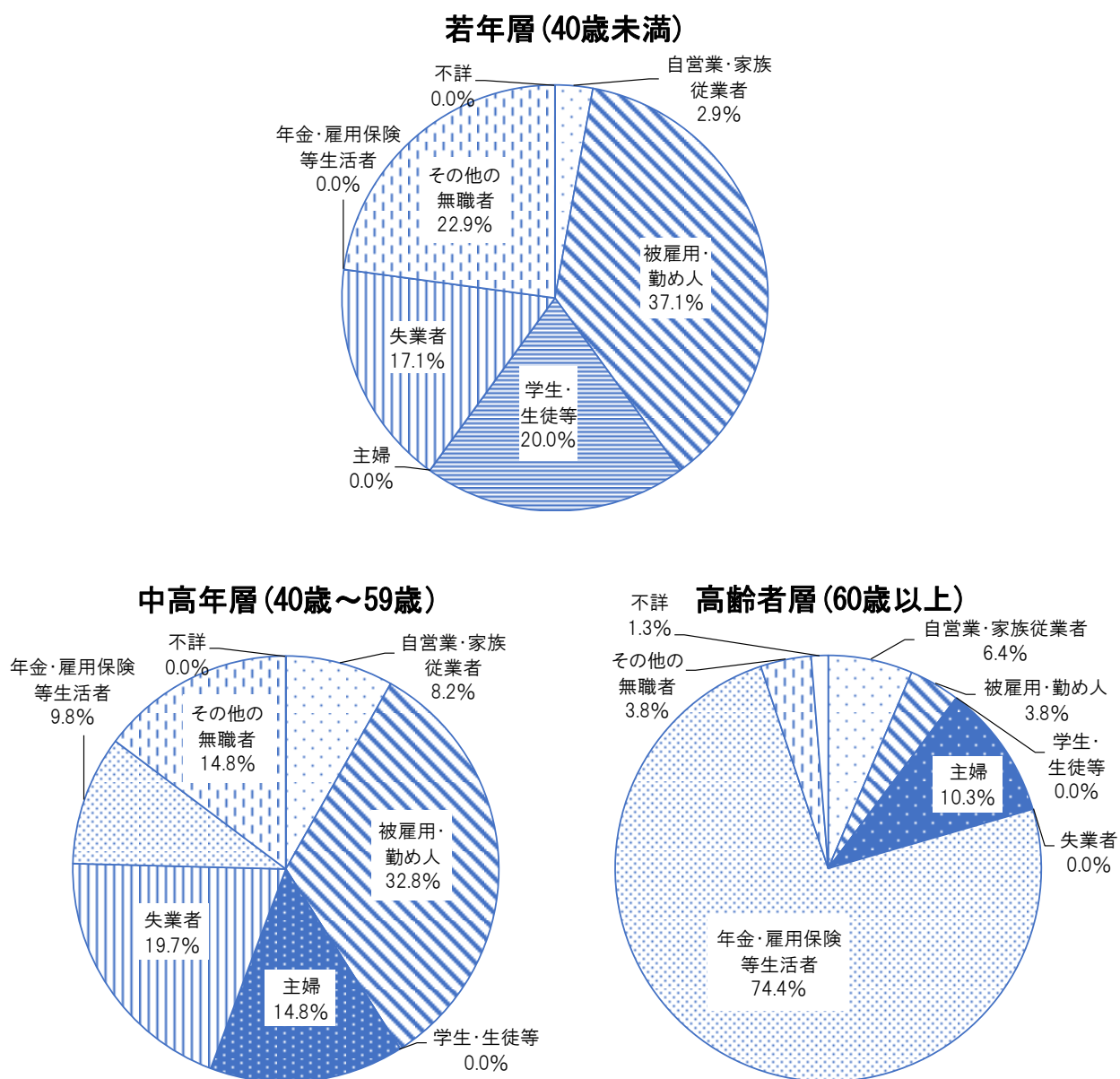


資料：警察庁「地域における自殺の基礎資料（自殺日・居住地）」

(4) 職業別自殺者の割合

職業別自殺者の割合をみると、若年層・中高年層では「被雇用・勤め人」の割合が高く、高齢者層では「年金・雇用保険等生活者」の割合が高くなっています。

年齢層（若年層・中高年層・高齢者層）別、職業別自殺者の割合（平成29年～令和4年計）



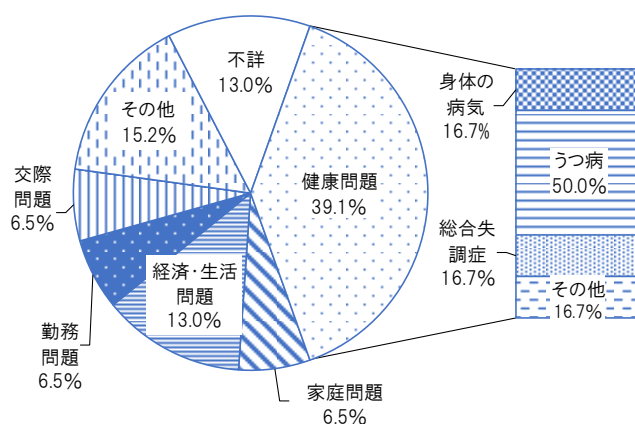
資料：警察庁「地域における自殺の基礎資料（自殺日・居住地）」

(5) 原因・動機別自殺者の割合

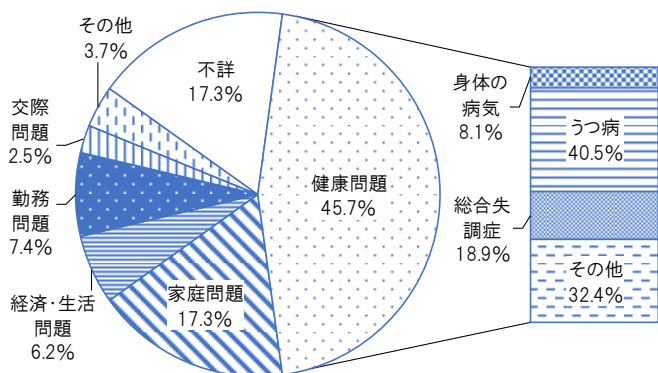
原因・動機別自殺者の割合をみると、「健康問題」がすべての年代で最も高く、国・県と比較しても高くなっています。また、若年層、中高年層、高齢者層と年齢が高くなるにつれて高くなっており、若年層では「経済・生活問題」が、中高年層、高齢者層では共に「家庭問題」が「健康問題」に次いで高くなっています。

年齢層（若年層・中高年層・高齢者層）別原因・動機別自殺者の割合（平成29年～令和4年計）

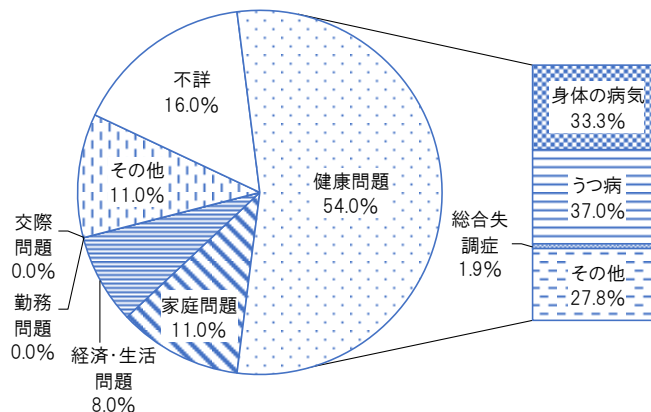
若年層(40歳未満)



中高年層(40歳～59歳)



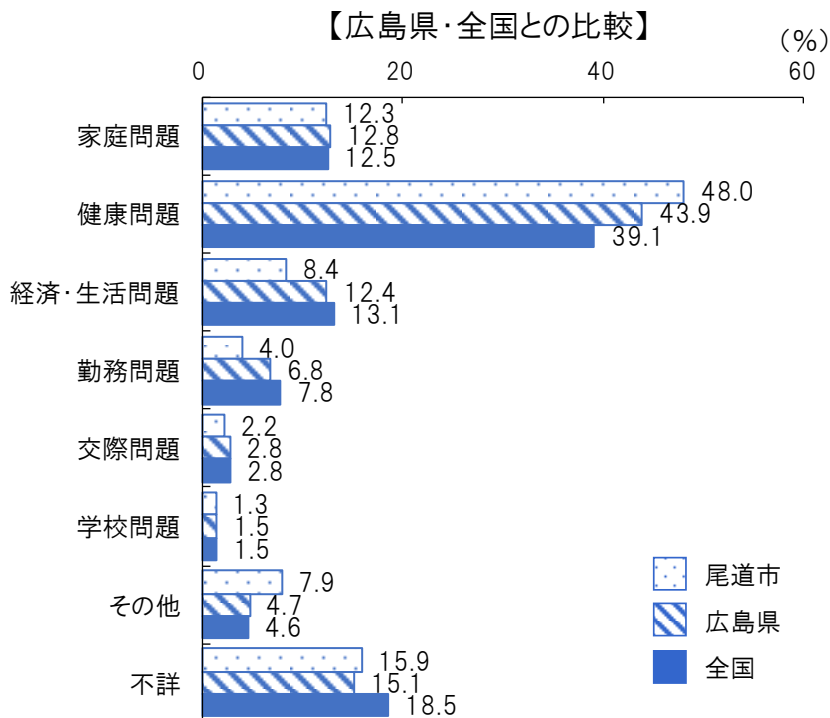
高齢者層(60歳以上)



資料：警察庁「地域における自殺の基礎資料（自殺日・居住地）」

※遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を計上したものです。
平成29年～令和3年（3つまで計上）
令和4年（4つまで計上）

原因・動機別自殺者の割合（平成29年～令和4年計）

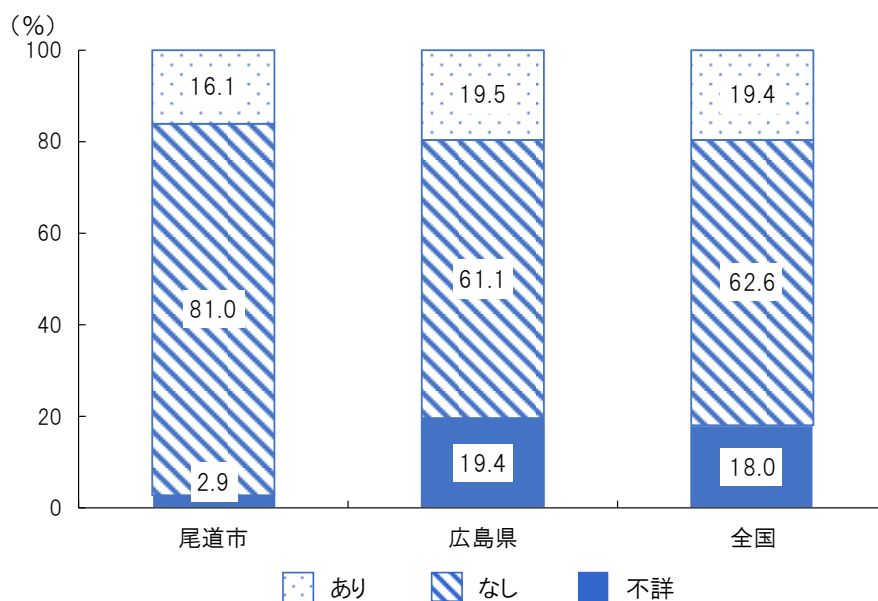


資料：警察庁「地域における自殺の基礎資料（自殺日・居住地）」

（6）自殺未遂歴の有無

自殺未遂歴の有無をみると、国・県と比べ「なし」の割合が高くなっています。

自殺未遂歴の有無（平成29年～令和4年計）

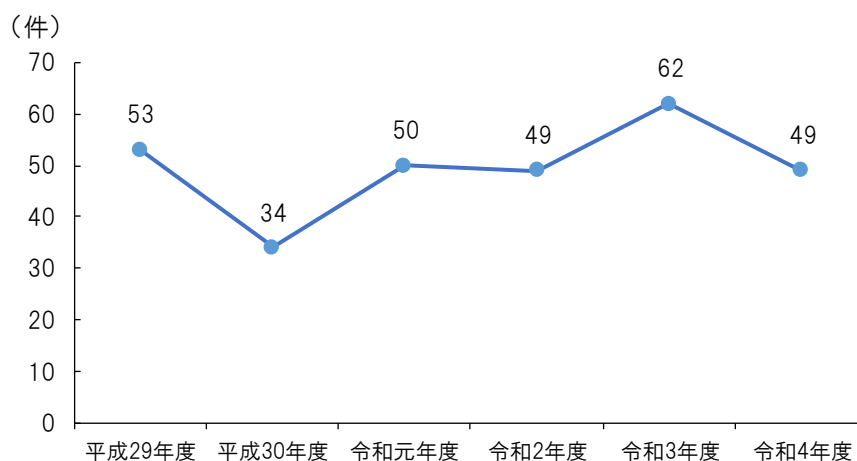


資料：警察庁「地域における自殺の基礎資料（自殺日・居住地）」

(7) 自損行為救急出場件数の推移

尾道市消防局における自損行為救急出場件数の推移をみると、令和3年度（2021年度）の62件が最も多く、平均して50件となっています。

自損行為救急出場件数（搬送者・不搬送者の合計）の推移

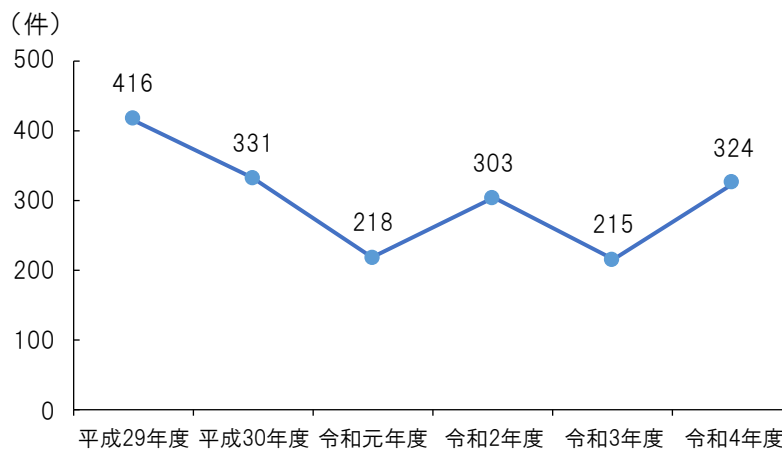


資料：尾道市消防局警防課

(8) 女性相談受付件数の推移

尾道市の女性相談受付件数の推移をみると、平成29年度（2017年度）の416件をピークに令和元年度（2019年度）まで減少しましたが、その後は増減を繰り返しています。

女性相談受付件数の推移

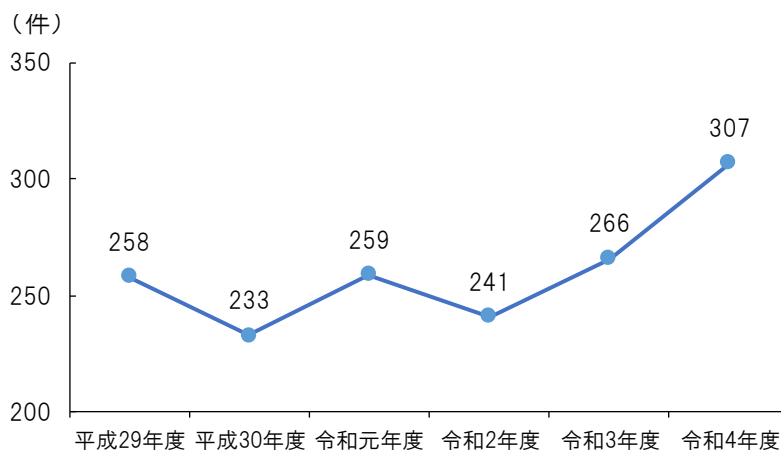


資料：尾道市社会福祉課

(9) 生活保護面接相談件数の推移

尾道市の生活保護面接相談件数の推移をみると、令和2年度（2020年度）以降増加傾向で推移しており、令和4年度（2022年度）は307件となっています。

生活保護面接相談件数（実）の推移

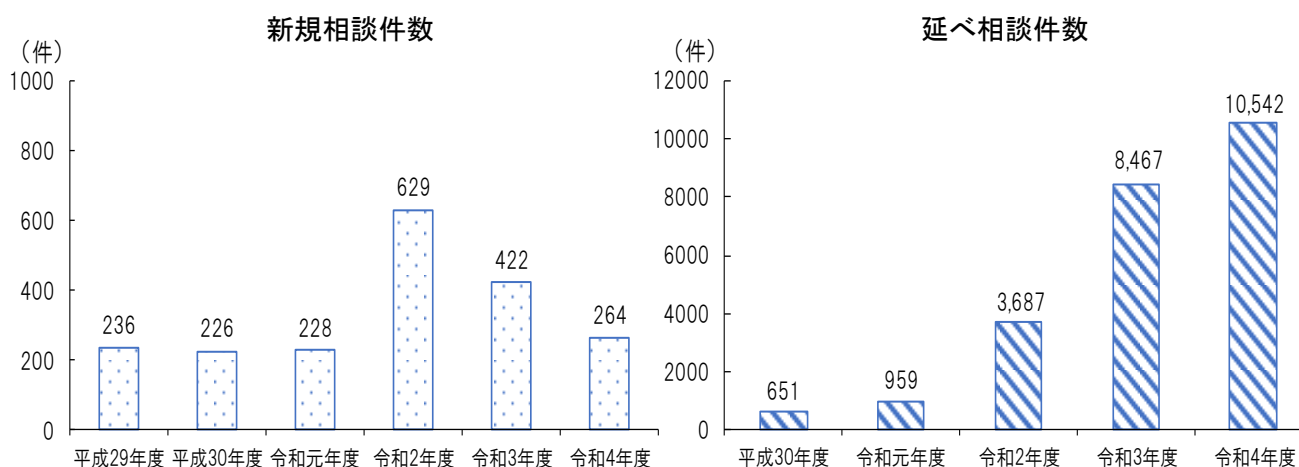


資料：尾道市社会福祉課

(10) 暮らしサポートセンター相談件数の推移

尾道市の暮らしサポートセンター新規相談件数の推移をみると、新型コロナ特例貸付制度が開始され令和2年度（2020年度）に629件と急増しました。その後は減少し、令和4年度（2022年度）は264件となっています。その反面、延べ相談件数は増加しています。

暮らしサポートセンター相談件数の推移



資料：暮らしサポートセンター尾道
※延べ相談件数は平成30年より集計

(11) 「地域自殺実態プロフィール」における自殺の状況

国が設置している自殺総合対策推進センターが分析した「地域自殺実態プロフィール」では、平成29年（2017年）から令和3年（2021年）までの5年間の状況から自殺対策の重点となる項目として「高齢者」「生活困窮者」「無職者・失業者」の3つが挙げられています。

地域の主な自殺者の特徴（平成29年～令和3年の合計）（特別集計：自殺日・住居地）

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (10万人対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性60歳以上無職同居	22	14.4%	36.3	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2位:女性60歳以上無職同居	18	11.8%	19.0	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
3位:男性40～59歳無職同居	16	10.5%	272.0	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
4位:男性40～59歳有職同居	15	9.8%	24.4	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
5位:男性60歳以上無職独居	13	8.5%	108.4	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺

*自殺死亡率の算出に用いた人口（母数）は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCP（いのちを支える自殺対策推進センター）にて推計したものです。

**「背景にある主な自殺の危機経路」はライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したものです。

自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではない。



地域自殺実態プロフィールとは？

効果的な自殺対策を推進していくために、JSCPにおいて、全ての都道府県及び市町村それぞれの自殺の実態（原因・背景・属性）を分析したものです。

重点パッケージとは？

地域で優先的に取り組まれるべき課題となり得る事柄に対する施策群のことで、推奨される施策群は、以下の9項目の中から3項目を提示されます。

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1. 子ども・若者 | 4. 無職者・失業者 | 7. 震災等被災地 |
| 2. 勤務・経営 | 5. 高齢者 | 8. 自殺手段 |
| 3. 生活困窮者 | 6. ハイリスク地 | 9. 女性 |